

児童生徒への適切な指導のために

～ かかわりの基本 ～

「あのとき担任が言ってくれた『がんばってるね』という一言は、本当にうれしかった。」「部活動顧問の先生が本気で叱ってくれたから今がある。」そのような思いは、誰にでもあるでしょう。

教師の子どもへの「かかわり」は、学校生活の魅力を左右する大きな要素です。さらに、その「かかわり」は学校生活だけでなく、その子の生涯にわたって影響を与えるとと言っても過言ではありません。

子どもたち一人一人との日常的な「かかわり」について、改めて考えてみましょう。



わかろうとすることが「かかわり」の第一歩

一人一人の子どもたちをよくみて、個性や特徴、背景等をわかろうとし続けることで、少しずつその子の理解が深まり、より適切にはたらきかけることができるようになります。

みる

- 授業中、休み時間、始業前、放課後、登下校のとき、教室移動のとき、給食のとき、清掃のとき、部活動のとき、一人のとき、友人といるとき など
- 表情、視線、姿勢、服装、髪型、持ち物、歩き方、活動の様子、話し方（声の大きさ、声のトーン、言葉遣い）など

はたらきかける

- ことばをかける（ほめる・注意する・挨拶するなど）
- 視線を合わせる、表情で示す（笑顔や厳しい顔など）、身振り・手振りで示す（うなづく・拍手するなど）、肩などに手をおく、そばに行く
- （その場ではあえて）何もしないで見守る



一人一人の子どもたちを理解しようとし、その子に応じたはたらきかけをすることが「かかわり」です。その積み重ねが相互理解を深め、安心や信頼につながります。

「ことばかけ」と「きく」こと

日頃の「かかわり」の多くは、ことばを交わすことによって行われます。大切なのは、**心がかよったやりとりになっているか**ということです。その子がどんな気持ちでいるのか配慮したり、どうしてそのような行動をとったのか推測したりしながら、「ことばかけ」をすることが必要です。

「きく」ことには、人を動かす力があります。丁寧にその子の話をきくことによって、その子が自分の考えや思いに気付いたり、整理したりすることができるからです。子どもの話を途中でさえぎったり、自分の話に変えたりすることなく、**子どもが安心して最後まで話せるように**、しっかり「きく」ことが大切です。

「ことばかけ」や「きく」際に大切にしたいこと

子どもを受け入れていること

- ・ 一人一人が異なった考え方や感じ方、そして生き方をしていることを心から認め、関心を向けること



理解しようと努力すること

- ・ 子どものことを正確に完全にとらえることは難しくとも、できるだけわかろうと努力すること

ありのままの自分であること

- ・ 教師自身が等身大で子どもに向き合い、強がったり、おもねったりすることなく誠実な態度や姿勢でいること



一人一人の子どもがどうなりたいと思っているのかを知っておくと同時に、教師としてはどう育ててほしいと思っているか、自分の思いを普段から確認しておくことが必要です。

どんなことばかけをしますか？

* 一例としてご覧ください。

- ◇ 算数が苦手なAさんが、今日のテストで90点をとりました。テストを返すと点数を見て、うれしそうな表情を浮かべました。

「よくがんばったね！」 ⇒ 努力した過程に注目する

「90点なんてすごいね！」 ⇒ 結果だけを評価している

「やればできるじゃない！」 ⇒ 普段は勉強してないとも解釈できる

「次は100点間違いなしだな！」 ⇒ 過度なプレッシャーを与えることもある

- ◇ 清掃の時間、Bさんが黙ったまま立っています。

「どうしたの？」 ⇒ 理由に注目する

「何やってんだ！」 ⇒ 頭ごなしに叱っている

「やる気ないの？」 ⇒ 勝手に理由を推測している

「早く始めなさい！」 ⇒ 指導を優先している



- ◇ 落ち着きがなく、自分本位なので、あなたがいつも気にかけているCさんが、「Dと遊んでいたらガラスが割れた」と言ってきました。



「怪我はなかったか？」 ⇒ 無事を確認する

「やると思った！」 ⇒ 信頼していないことを伝えている

「誰がやったんだ！」 ⇒ 犯人捜しから始まっている

「片付けてきたのか？」 ⇒ 後始末に注意が向いている

「ほめる」「叱る」

ほめることも叱ることも、子どもたちの成長を願う気持ちが根底にあることに違いはありません。ほめたり、叱ったりした後の子どもの様子をしっかりとみて、自分のほめ方や叱り方を振り返り、磨いていきましょう。

- ① タイミングは適切だったか
- ② 選んだことばや言い方は適切であったか
- ③ 特定の子や結果だけを対象にしていないか
- ④ 教師が持っている基準や、求めている子どもの姿は適切か

どんなことに注意しますか？

- ◇ 過去に不登校の経験があるEさんが、5月半ばから毎日のように保健室に来ています。話しかければ答えますが、自分から話すことはほとんどなく、1時間休むと教室に戻っていきます。

Eさんの思いを大切にすること

毎日のように保健室に来るけれど、1時間休むと教室に戻っているという今の状況をどうとらえるかが重要な点です。1時間休むことによって、何とか登校できているのかもしれませんが、何かに気付いてほしいというサインかもしれません。

Eさんがどんな思いで学校に来ているか担任や養護教諭が話をきき、思いを大切にしながら、SCや家庭との連携を含め、学校としてできることを探っていく必要があります。

- ◇ 休み時間に、Fさんが4～5人分の教科書やノートを持って教室移動をしているのを見かけました。誰の荷物が尋ねたところ、Fさんは「大丈夫です」と笑顔で答えました。

Fさんがいじめられていないか確認すること

Fさんの「大丈夫です」という言葉の裏にはどのような思いがあるのでしょうか？

Fさんの思いを大切にしながらも、誰の荷物なのか、どういう経緯で荷物を持つことになったのか、いつもなのか、などの点について、まずFさんに丁寧に事情をききます。

いじめが疑われる場合、学校の「いじめ防止基本方針」に基づいて組織的に対応します。

※ いじめの要素が認められない場合であっても、荷物を持たせた児童生徒や学級全体に、適切に指導をする必要があります。

栃木県総合教育センター教育相談部発行資料

- 校内支援体制構築のための手引き書
～ 一人一人の児童生徒が生き生きと学校生活を送るための組織づくりQ & A ～ (H25)
- 児童生徒への適切な指導のために ～指導の進め方～ 〈リーフレット〉 (H26)
- 児童生徒への適切な指導のヒント 事例集 (H27)



栃木県総合教育センター 教育相談部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7211
発行 平成28年3月